平成２６年度　第２回

第６期豊川市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会

１　日時

平成２６年６月４日（水）午後１時３０分～午後３時３０分

２　会場

豊川市役所　本庁舎３階　協議会室

３　次第

１　あいさつ
２　議題
（１）　第６期介護保険制度の改正内容と策定スケジュールについて
（２）　高齢者福祉に関するアンケート調査の結果について
（３）　第５期高齢者福祉計画・介護保険事業計画各種事業の実施状況と豊川市の現状・推移について
（４）　計画の基本理念について
（５）　日常生活圏域について
（６）　各種団体等へのアンケート等の実施について
３　その他

４　出席委員　１６名

大河一夫　渥美昌之　井上和彦　大谷和生　波多野知司　山本精一　中田和男
白井勝　平田節雄　野澤定一　寺部佳宏　鈴木至　竹本三保子　辻照代
権田寿子　片山佳代子
※欠席者１名（　冨田正治　）

５　事務局

介護高齢課　鈴木次長、桑野課長、丸山主幹、竹本課長補佐、手塚課長補佐、
岩瀬課長補佐、安藤高齢者支援係長、松井高齢者支援係専門員、
佐野介護保険係長、鈴木主任、委託業者（㈱名豊）

午後１時３０分　委員会の開会

（事務局：岩瀬課長補佐）

委員の皆様には、大変お忙しい中、ご出席をいただき誠にありがとうございます。

定刻になりましたので、ただ今から第２回、「第６期豊川市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会」を開催させていただきます。

なお、富田委員におかれましては、本日欠席のご連絡を頂いておりますので、あらかじめご了承ください。それでは最初に、大河会長さまからあいさつを頂きたいと思います。よろしくお願いします。

【あいさつ】

（会長）

今回の案件でありますアンケート結果を分析し、皆さんにご理解いただき、保険料設定など計画策定につなげていきたいと思います。

（事務局：岩瀬課長補佐）

ありがとうございました。

会議に入ります前に、役員改選等で２名の委員の交代がありましたのでご報告させていただきます。

まず、豊川市シルバー人材センターの推薦する委員として、野澤定一様、一言ごあいさつをお願いいたします。

（野澤委員）

豊川市シルバー人材センター会長の野澤です。初めてですので、宜しくお願いいたします。

（事務局：岩瀬課長補佐）

ありがとうございました。続きまして、豊川市連区長会の推薦する委員として、寺部佳宏様、一言ごあいさつをお願いいたします。

（寺部委員）

諏訪一部の町内会長をやっています。宜しくお願いいたします。

（事務局：岩瀬補佐）

ありがとうございました。なお、新しい委員の皆様にお渡しする委嘱状につきましては、略式ですが、机上にお配りさせていただきました。ご確認をお願いいたします。

なお、本年度の計画策定業務を委託した株式会社名豊の方にも、本日、事務局側に同席させていただいておりますので、ご理解のほど、よろしくお願いします。

また、当委員会につきましては、原則公開といたしまして、議事録につきましては、発言した委員のお名前が分からないような形で、要点筆記によりますものを公開してまいりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります前に、本日の資料の確認をさせていただきます。上から次第、座席表、策定委員会の設置要綱と委員名簿、事前に郵送させていただきました資料のグラフ等に関係したページのＡ３拡大版、１０ページの差し替え用資料となっております。１０ページにつきましては、「認知機能について」のグラフのうち「認定者」の棒グラフ等の数値が「一般高齢者」のものとなっておりましたので、差し替えをお願いします。申し訳ありませんでした。以上でございます。なお、新らしく委員になられた方には、第５期の計画書のコピーを配布させていただいております。

もし、お手元にない資料がございましたら、事務局にお申し出ください。

それでは、議事に移りたいと思いますので、会議の進行を大河会長さま、よろしくお願

いいたします。

（会長）
　それでは、会議を進めさせていただきます。
　次第２　議題（１）第６期介護保険制度の改正内容と策定スケジュールについて事務局より説明をお願いします。

【議題】
（１）第６期介護保険制度の改正内容と策定スケジュールについて
　　事務局より資料説明。

（会長）
　ただ今の事務局の説明について、ご意見・ご質問などがあれば、順次ご発言をお願いします。
　　⇒　委員会より特に意見なし。

（会長）
　スケジュールについては、確認しました。続きまして、（２）高齢者福祉に関するアンケート調査の結果について事務局より説明をお願いします。

（２）高齢者福祉に関するアンケート調査の結果について
　　事務局より資料説明。

（会長）
　それでは、議題（２）につきまして、ご意見・ご質問などがあれば、順次ご発言をお願いします。

（Ａ委員）
　一つ目、７ページの健康状態について、認知症は認定者のみについて高い割合を示すという意味がよく分からない。二つ目、１１ページの知識と現実とのギャップに戸惑わないような周知活動と精神的側面からフォローする仕組み作りとは。
　三つ目、介護予防について、現状の脳トレ・筋トレの他に何か新しいものを考えているのか。

（事務局：佐野係長）
　一つ目は、資料８ページのグラフの左側が一般高齢者、右側が認定者となっており、一般高齢者の１４番の認知症の割合と、認定者の認知症の割合の比較をした文章となっている。
　二つ目は、地域支援事業の充実をめざし、認知症の施策の推進の中で、本人や家族への支援・相談業務に関する部分で、集中支援チームや地域支援の認知症推進員の設置などを

早期に実現していく取り組み、フォローしていく仕組み作りが重要である。

（事務局：桑野課長）
　三つ目は、介護予防の脳トレ・筋トレを始めて三年目だが、二次予防事業対象者は、人数を集めるのに苦労している。もっと多くの方にサービスの影響を受けてほしい。誘い方や、その場で終わらせることなく、生活習慣に結びつくようフォローしていく体制を考えて行かなければならない。
　また、今回事業者アンケートを予定していて、その中で事業者がどういう意向を持っているか聞く予定である。

（Ｂ委員）
　７ページ「生活習慣病への関心が高いとは言えません」だが、実はみんな介護したくないし、されたくない。また、介護をしたくないし、してもらいたくないと思うのが人間である。
　介護されないように努力する、という点に関心が低いということは、介護されると、とても良いことがあると思っているようだが、実際はない。結局甘えて介護を受けたいなと思い、介護を受けてしまうので、ますます悪くなっていく。
　防災と同じで、「自分の身は自分で守れ」ではないが、介護を受けなくてもいいような、脳トレなど、そういう場を設けて、自分は絶対介護を受けなくてもいいようにしていこうと思っている。参加者をどう集めればいいのかは難しいところである。
　認知症の問題もそうであるが、生きがいを持てば良いと思う。コミュニケーションを作るためにどこかに参加したいと思う場合、町内には老人会などコミュニケーションを取る場が意外とあるので、地域の事業に参加してもらう、またはシルバーなど簡単な仕事に参加し、常に生きがいを感じながら生活していくことが良いと思う。
　平日の昼間に何かの災害などが起こった場合、地域で動けるのはリタイアした方たちが殆どだと思う。だから自分たちがやっていくしかないし、そのことも念頭において活動をしてもらうと介護予防にも良いと思う。しかし、先程も言ったように、なかなか声をかけても参加してもらえないのが現実である。

（会長）
　事務局では今の話をどのように受け止めるか。

（事務局：桑野課長）
　「健康を保つ」という視点で介護を予防をするという今の話は、大変重要な話だと思っている。市が行っている国民健康保険の健診同様、やはり最後は自分自身の心構えといったものが問題になってくるので、生きがいを持つのは良いと思う。
　今回の介護保険法の改正では、「地域で元気な高齢者が支援を必要とする高齢者を助ける、という役割を持ってもよいのではないか」、とされている。介護でなく、防災でも良いので、生きがいづくりをすることも今回の計画の中で重要なポイントになると考えている。

（Ｃ委員）
　認知症は避けられないが、各々の責任でいかにして認知症にならないために備えていくか、行政が道筋を作って示していかなくてはならない。
　成人病予防にしても、認知症のリスクが落とせるという啓蒙活動をしていって欲しい。その時に、高齢者がどのように社会参加していくことで認知症を避けられるか、また、認知症になっても怖くない、と皆が思える豊川市にするため、道筋をいくつか示すのが認知症対策ではないかと思う。高齢者が人生の卒業までを歩む時、認知症はついてくるものなので、こんな歩み方をすると自分の思ったような余生が送れる、というプロセスをいくつか見せること、認知症対策の中で必要な方向性ではないかと思う。

（Ｄ委員）
　老々介護とか認認介護の割合が補足で説明あったが、核家族化とか少子高齢化で家族の規模が小さくなっているため老々介護や認認介護という状態が起こっており、そのうえでの数値だと思うので、それも課題の整理の中で言葉としてあげていただけると分かりやすい。

（会長）
　具体的な数字を持っていると思うので、今回そこにあげてないのはグラフの分析に直接なかったためということか。

（事務局：佐野係長）
　前回会議の中で老々介護や認認介護の質問があったため、今回、別に補足の説明ということで文章にまとめて報告した。

（Ｅ委員）
　１３ページの「高齢者相談センター、包括支援センターについて知らない」という人が５０％以上いるというのは寂しい話なので、広報の方で、柔らかい感じのＰＲ活動などを進めてほしい。

（会長）
　事務局は高齢者相談センターの現状に関して、「知らない」という数は減ってきているが、今後どのように推移すると考えるか。

（事務局：桑野課長）
　今回アンケート結果には載せていないが、自由意見を記入する欄があり、その結果をまとめると、その中で介護保険制度、高齢者福祉サービスについてよくわからない、難しいという意見もあった。高齢者相談センターがもっと身近なものになっていく必要があると思う。より周知を重ねて、困った時にはそういうものがあるといったことをもっとＰＲしていく。

（Ｆ委員）
民生委員の中で、６５歳以上の一人暮らしの家庭訪問をしている。その中で、私はメリハリのある訪問の仕方を心がけている。健康な方に対しては、「自分の日常の生活パターンを崩さないようにして、病気になったりしないように毎日生活してください。」、と言っている。そしてある程度年をとって、体の不自由な方や介護が必要になったと思ったら、高齢者相談センターのチラシをおいてきたりし「電話をかけて、相談してみてください。」、と声掛けをしている。そういう活動を月一回している。

（Ｇ委員）
社会福祉協議会では、同様に周知に務めているところであるが、残念な結果で、ますます頑張らなければいけないと思っている。
今、職員は待っているのではなく、どんどん外へ出て、訪問件数を増やして周知していくということを頑張っており、引き続きやっていきたい。

（会長）
気楽に相談窓口になるというお話があったが、虐待のような大きな事件など、何でもいいから相談に来てください、という雰囲気を作り出す必要があると思うが、現状、手一杯でそんな余裕はないという状況か。

（Ｇ委員）
先程も言ったが、職員は頑張っているが、結果の方は残念である。引き続き、周知に取り組んでいく。

（会長）
個々の活動が相談センターに繋がっていないかもしれない。

（Ａ委員）
高齢者虐待防止のところで、アンケートでは市役所というのが２番目に入っているが、課題の整理では「今後は高齢者相談センターが中心になって・・」となっている。市役所の役割、警察の役割もここにはかなり強くあるのではないかと思うので、文章的にどうかと思う。

（事務局：桑野課長）
果たしてこれが虐待なのかどうかという時に、身近な相談場所として高齢者相談センターが機能する、という意味で書いたものであり、決しての市の方では関わらないという意味ではない。

（Ｈ委員）
高齢者相談センターが機能して、うまくいったケースを報告する。高齢化に伴い夫婦別居になり、一人になってしまった男性がいた。その様子を知った方が、高齢者相談センタ

ーへの相談を勧め、センターの人が自宅を訪問した。このことをきっかけに、家族の方が、「周りに心配をかけてはいけない」と、家に戻ってきた、というケースがあった。
　高齢者相談センターは、医者で言うなら、往診に行く程度の活動でも大きな効果があるということを感じ、大事な機能を果たすことができる仕組みだと思っている。

（Ｂ委員）
　町内会関係でも、福祉でふれあい訪問という活動をしている。高齢者相談センターでもやっているので、今の話を聞いて、もっとこの活動を広げていけばいいと思う。

（Ｉ委員）
　シルバー人材センターでは、６０歳以上の方が入っている。皆さん健康で張り切っている。しかし、最近では会員が減少しているので、是非、シルバー会員になってもらえれば、少しでも高齢者の方が健康に過ごせるのではないかと思う。

（Ｊ委員）
　老人ホームでは、５０名ほどの高齢者を預かっている。その中で感じていることがある。これは高齢者の３Ｋで、老人が毎日不安に感じていることが「健康・経済・孤独」である。
　高齢者相談センターへの看板を、避難所への誘導看板のように設置したらどうか。

（会長）
　それ以外に意見がないので、次の議題、（３）第５期高齢者福祉計画・介護保険事業計画各種事業の実施状況と豊川市の現状・推移について　事務局より説明をお願いします。

（３）第５期高齢者福祉計画・介護保険事業計画各種事業の実施状況と豊川市の現状・推移について
　　事務局より資料説明。

（会長）
　それでは、議題（３）につきまして、ご意見・ご質問などがあれば、順次ご発言をお願いします。

（Ｉ委員）
　「各種保健事業参加」の中で聞きたいが、各種がん検診の中で７０歳を超えると前立腺がんの項目が抜けるのはなぜか。

（事務局：竹本課長補佐）
　それは保健センターの事業なので、確認してから回答する。

（Ａ委員）
　要介護認定者推計と実績の比較のところで、要介護２、３、５の認定者数が下がってい

て、要支援１、要介護１、４の認定者がそれぞれ推計値を上回っている。これは重度化が進んでいないのか、認定が厳しくなったためか。

（事務局：桑野課長）
個別に事情を汲んで推計をとっているのではないので、その原因がどこにあるかということは、検証する手段もないというのが実情である。

（Ｋ委員）
健康づくり推進委員というのはどういう方がなるのか。

（事務：松井高齢者支援係専門員）
これも保健センターの事業で、市民に対して健康づくりをボランティアでお手伝いしてくれる方を養成する、という事業がある。そこに参加し卒業した方が委員になっている。

（会長）
それでは、議題（３）を終わり、次の議題、（４）計画の基本理念について、議題（５）日常生活圏域について　どちらも次期計画の基本となる事項ですので、一括して、事務局より説明をお願いします。

（４）計画の基本理念について、（５）日常生活圏域について
事務局より資料説明。

（会長）
それでは、議題（４）、議題（５）につきまして、ご意見・ご質問などがあれば、順次ご発言をお願いします。

（Ａ委員）
３６ページの第６期の計画のポイントの中で、定期巡回・随時対応型訪問介護看護というのが入っているので、これを今後整備していくのかな、と感じるが、訪問サービスはやり方によってはとても良いサービスになる。しかし、やり方が悪いと非常に力のないサービスになると思う。今まで豊川市は小規模多機能を中心とした形で、２４時間の巡回型を取り込んではこなかったが、その流れとちょっと相反する部分があるのではないか。ここに書かれている複合型サービスの方が優位性が高いのではないか、そちらを広げていった方が今後もっと豊川市の在宅サービスが充実していくのではないか、と思うが。

（事務局：桑野課長）
今の話は、例えば一つの住宅や高齢者専用住宅だけに定期巡回サービスが回ったような場合、地域一帯をエリアとして見ることが本来の形だと思うが、一定のエリアの方だけがサービスの対象になってしまうのではなか、という話かなと思う。これからさらに高齢化が進んでいくと、外に出ることもままならなくなる方が増えてくる。その時にうまく機能

すれば、巡回型のサービスは、特に住宅が密集した地域で効果を発揮していくと考えている。どこでもこのサービスを整備するのではなく、地域性に合った形でうまく活用出来ていく方向を考えている。

（Ａ委員）
　厚生労働省は、特別養護老人ホームや特定施設のような、これまで中の職員で対応してきたサービスを、この２４時間巡回型にしていくように指針を出しているが、その辺はどのように考えているか。

（事務局：桑野課長）
　そういう話が出ているのは承知しているが、事業者を選定していくので、その中で差別化を図れると思う。

（会長）
　それ以外に意見がないので、次に、議題（６）各種団体等へのアンケート等の実施について　事務局より説明をお願いします。

（６）各種団体等への実施について
　　事務局より資料説明。

（会長）
　ただ今の事務局の説明について、ご意見・ご質問などがあれば、順次ご発言をお願いします。　　⇒　委員会より特に意見なし。

（会長）
　意見などがないので、議題（６）につきましては、事務局の説明のとおり、よろしくお願いします。
　次に、次第３「その他」に入らせていただきます。事務局より説明をお願いします。

（事務局：岩瀬課長補佐）
　次回開催予定についてご案内申し上げます。次回、第３回計画策定委員会の開催につきましては、８月上旬ごろを予定しております。期日等が決まり次第ご連絡させていただきますのでよろしくお願いいたします。

（会長）
　会議全般で何かご質問は。

（Ｌ委員）
　今回、各アンケートに応じた課題の整理が見られ、読みやすくなって、わかりやすくなっている。しかし、課題の整理で気になったところが３件ある。

１つ目は、「特にない」という言葉のところで、高齢者同士、地域で支えあう、関心を深める必要性があると締めくくられているが、どのように関心を深めていくのか、もう少し具体的ではなくても説明がほしい。

２つ目は、家族介護のあり方の提示をしていかなくてはならない、というところがあった。これは今まで女性が介護をしていた状況が崩れつつ有るので、今回のあり方を提示する、とあるところで、これも家族という言葉ではなく「地域家族介護のあり方」と提示すると、先ほどの「自分で自分の身を守る」という話に足していけると思う。

３つ目は、認知症にならないための介護予防教室の充実で、人とどう関わっていくのか、という教室も作ると充実ができる、と思う。

以外では、現在施設サービスを受けている家族の方へのアンケートがない。できれば施設サービスを受けている家族の方に、介護サービスはどうなのか、というアンケートが必要だと思う。

（会長）

参加者のまとめの文章に関する指摘である。文字の追加というようなこと、アンケート対象に対する提案なので、また事務局の方で検討してほしい。

（M委員）

母が介護を受けていて、高齢者相談センターにお世話になっているが、健康なうちは高齢者相談センターというものがあることを認識していなかった。以前、民生委員をやっていた時に初めてそういうものを知った。やはり、高齢者の方も健康なうちに言っても、「まだ自分はいい」と聞き入れてもらえなかった。いざ悪くなったときには、「どうしたらいい？」と電話がある。このように、関係している人間は分かるが、関係していない人はパンフレットを見てもなかなか分からない。もう少しなんとか知ってもらう方法を考えてほしい。

ある企業に行った時、そこで働いている４０代・５０代の方が、高齢者相談センターというものを知らなかった。やはり現実的に、自分がそのような状況にならないと探さない、知ろうとしないため、企業への保健指導や出張講座みたいなものがあると良いと思う。

（K委員）

地域のサロンというものに時々出ているが、そこに集まっているのは女性が多い。保健センターから先生が来て、頭の体操とかするのですごくいいと思う。もっと男性も参加した方が良いと思う。この地域では月二回行われているが、それをすごく楽しみにして、デイサービスに行かない人でもそこには来る人もいる。そういう地域サロンをもっと使うのも良いかと思う。

（会長）

これをもって、平成２６年度　第２回第６期豊川市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会を終了させていただきます。長時間にわたりご協力ありがとうございました。

午後３時３０分　閉会